特集：読みと教育

読書へのアニマシオンそして読書セラピー

黒木　秀子

「読書へのアニマシオン」の日本紹介（1997年）ー

「読書へのアニマシオン」とは，スペインで開発された読書教育の方法で，20世紀末にモンセラット・サルト氏とそのグループによって構想され実施された。1990年代にヨーロッパのカトリック関係者の間でこどもの読書離れが話題となった時期があり，マドリードでカトリック雑誌の編集長をしていたサルト氏は，こどもたちが本を読まなくなってきているのは「読まない」のではなく「読めない」からではないかと仮説を立て，それならば「読めるように育てる」具体的な方法を考えるべきと提唱した。そして自ら着手したのが「読書へのアニマシオン」の方法だった。「アニマシオン」とは，当時イタリア，フランス，スペインを中心に行われていた青少年の文化的活性化運動の総称で，それを「読書へ向かっての活性化」としてサルト氏らが名付けたのが「読書へのアニマシオン」だった。当時アメリカで盛んになり始めていた発達心理学の知見を取り入れて，「見る」「聞く」「注意する」「記憶する」などの基本的な作業を地道に積み上げることが「読み」の基本トレーニングであると主張した。そしてその具体的なやり方をまとめたのが1995年に出版された『読書へのアニマシオン25の作戦　こどもを読み手にするために』（スペイン・サンタマリア出版）だった。サルト氏とそのアニマシオンのグループは1993年に国際児童図書評議会（IBBY）の「朝日国際児童図書普及賞」も受賞している。

日本では1997年にこの本の翻訳である『読書で遊ぼうアニマシオン　本が大好きになる25のゲーム』(注1) が刊行され，小学校の教員中心に関心が寄せられた。スペインで直接アニマシオン研修を受けたい希望も寄せられ，1999年には日本人向けミニセミナー，2000年と2001年には日本人向けアニマドール養成講座がマドリードで開かれた。2001年には，サルト氏の続編の日本語訳『読書へのアニマシオン75の作戦』(注2) も刊行された。

筆者は1997年の「読書へのアニマシオン」の日本初紹介時からかかわりを持ち，2001年のスペインセミナーに参加し，その後，2003年には第3回日本人向けセミナーの団長を務めた。

スペインセミナーに参加したメンバーたちは，それぞれの持ち場でこの方法を用いてこどもを読めるように育成することを目的に教壇に立ち，また，公共図書館や学校図書館で働きかけを続けてきた。

「読書へのアニマシオン」が日本で受け取られてきた過程

しかし，「こどもを読めるように育成する」という目的が，実はなかなか理解されずに日本初紹介から四半世紀が経過してきたことも事実である。

それには二つの面がある。一つの面は，「読書へのアニマシオン」の見た目の派手さやこどもを巻き込んだ楽しさから，この活動のねらいを「学級の活性化」や「レクリエーション」と思う方が多数あったことである。そのために「道徳のアニマシオン」「体育のアニマシオン」「町探険のアニマシオン」など，学校の授業や活動の中に「読書へのアニマシオン」の具体的な遊び方（「作戦」）が用いられるということが起きた。筆者は，学級活動を生き生きと展開するためにどのような手段が用いられても良いのだと思う。しかし，その時

注1『読書で遊ぼうアニマシオン　本が大好きになる25のゲーム』柏書房 1997年刊 モンセラット・サルト著 佐藤美智代・青柳啓子共訳

注2『読書へのアニマシオン 75の作戦』柏書房 2001年刊 M・M・サルト著　宇野和美訳